

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：22101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11887

研究課題名(和文) OSCEを活用した保健師学生のコンピテンシー育成 - 技能・態度に焦点をあてて -

研究課題名(英文) Competency Development for Public Health Nurse Students Using OSCE - Focusing on Skills and Attitudes -

研究代表者

綾部 明江 (Ayabe, Akie)

茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：10316127

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、公衆衛生看護技術の1つである健康相談に着目し、OSCEによる健康相談の技術評価を目指した。保健師教育にて健康相談のOSCEの実施経験がある大学から情報収集をした後、OSCE経験のある保健師教員10名にインタビュー調査を行い、健康相談に必要な技術80項目を抽出した。その項目を基に、全国の保健師養成機関283施設に対し、健康相談に必要な技術の実施状況および教育の難易度に関するアンケート調査を実施した。情報収集や、住民に伝える技術や確認する技術は比較的教育しやすいが、健康問題を検討し判断をする過程や、対応が困難な事例に対応する技術に関しては教育が難しいことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

公衆衛生看護の専門職である保健師が行う健康相談は、医療に関する専門的知識および、対人における相談技術を併せ持ち、対象である住民誰もが、現状より健康になるように導くことを職務としている。

本研究では、健康相談を実施するにあたって必要となる技術を保健師になる学生が習得できるように、OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) を活用して実施する方法を検討した。その結果、保健師を目指し公衆衛生看護学を学ぶ学生が、研究で示された健康相談の技術項目や展開などのガイドラインを基に技術を習得できる可能性が示された。

研究成果の概要(英文)： In this study, we focused on health consultation, which is one of the public health nursing skills, and aimed at the technical evaluation of health consultation by OSCE.

After collecting knowledge from a university with experience in conducting OSCE for health consultation at public health nurse education, we conducted an interview survey of 10 public health nurses with OSCE experience and extracted 80 skills required for health consultation was extracted.

Based on these skills, we conducted a questionnaire survey on the status of the skills required for health consultation and the difficulty of education at 283 facilities of the public health nurse training school in Japan. The information collection and the skill to be communicated and the skill to be confirmed are comparatively easy to be educated, but it is difficult to examine and assess the health problem and the skills corresponding to the case which is severe situation.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：健康相談 保健師学生 公衆衛生看護 OSCE

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在、保健師養成教育は過渡期にある。その中で、保健師国家試験の出題基準や、全国保健師教育機関協議会の「保健師教育におけるミニマム・リクワイヤメンツ」など、保健師学生の教育水準を標準化しようという動きがある。それらの延長線上には、卒業時の保健師の能力として、就業先である程度の技術が提供できるような保健師を養成しようという動きがある。それに伴い、保健師養成校の教員は学生にどのような教育を提供するか、教育の質についてより深く検討しなければならない。保健師は、「予防」の視点から長いスパンで地域と地区住民をみる視点を育成し、そのうえで、その場に応じた技術を提供する必要があるが、保健師学生に限られた教育期間で、これらの思考過程および技術提供方法を教えるには困難が伴う。

また、保健師学生に保健師としての技術をどの程度習得したのかは、教育課程の都度、評価しなければならないが、現在の教育では、筆記試験で評価される知識や、グループワークによる個別の学生が見えない状態での演習評価、限られた技術の提供しかできない実習の場面における実践力の評価が大半を占めている現状がある。本研究では、演習の評価手法である OSCE に着目し、保健師教育において OSCE を施行することにより、学生の技術の提供のみならず、住民との対応など、総合的な実践力であるコンピテンシーを評価する手法を開発することとした。

2. 研究の目的

本研究では、公衆衛生看護技術の1つである健康相談に着目し、OSCE の視点を活かした健康相談の技術評価を目指した。

- 1) 健康相談の技術評価方法の現状を把握し、課題を抽出する。
- 2) 健康相談を構成する技術を抽出する。また、健康相談の技術の展開を示す。
- 3) 2) で抽出された技術の教育実施状況を調査し、健康相談の教育方法を検討する。

3. 研究の方法

1) 健康相談の演習および OSCE に関する情報収集

既存資料の分析

現在、保健師教育で使用されているテキストの健康相談の記載内容を抽出し、その特徴について分析を行った。

健康相談演習の開催に関する施設見学

健康相談の演習に関する情報収集

2015年に健康相談の演習に特徴のある看護系大学1校を訪問し、健康相談の演習の展開方法に関する情報収集を実施した。

保健師教育における OSCE に関する情報収集

2016-2018年に、保健師教育の一環として OSCE を実施した経験のある看護系大学2校を訪問し、各校の OSCE 実施状況、保健師教育への利点及び課題に関して情報収集を実施した。

高雄医科大学における OSCE に関する情報収集

2018年9月に、台湾にある高雄医科大学にて、OSCE 棟の見学を実施した。さらに、看護学科教員に、看護教育における OSCE の実施状況に関する情報を収集した。

学内における OSCE の実施

2015-2019年にかけて、年1回、育児相談などの公衆衛生看護学に関する OSCE を実施した。

健康相談の技術の構成要素の抽出および関連性の検討

2018年に OSCE の実施経験がある保健師教員10名を対象に、健康相談の技術と考える内容に関するインタビュー調査を実施した。これまで健康相談の OSCE を実施した経験のある対象者には、実施した OSCE に関して「健康相談の OSCE を実施する際に評価している技術」および「OSCE を実施する際に評価をしていないが、健康相談として必要だと考えている技術」を尋ねた。また、対象者全員に、提示した課題例に関し、「健康相談の OSCE として、この課題で評価できる技術」と「課題例では評価がしづらいが、健康相談として必要だと考えている技術」を尋ねた。データは質的分析を行い、健康相談の技術を示すものとして単位化し、サブカテゴリーとした。また、内容が類似するものをカテゴリー、コアカテゴリーにまとめた。最終的に、コアカテゴリーの関連を、研究者らが検討し、健康相談の支援プロセスとして提示した。

健康相談の教育状況に関する調査

2019-2020年に、抽出した健康相談の技術を項目として抽出し、それらの技術についてどの程度教育を行っているのか、および健康相談の教育の実際について質問紙調査を実施した。対象は、全国の保健師養成校283校の主に健康相談を担当する教員1名とした。

4. 研究成果

既存資料の分析

代表的な公衆衛生看護学テキストにおける、健康相談の定義および健康相談の展開について記載内容を検討した。対象となったテキストは7冊であった。

健康相談の定義を検討したところ、対象の定義については、多くのテキストでは記載されておらず、一部のテキストでは“あらゆるライフサイクルにある人であり、様々な健康レベルの人”と定義していた。健康相談の方法にも同様に、多くのテキストには記載がされておらず、一部のテキストでは“訪問や面接、電話、文書、電子メール”と記載があるものがあつた。

こちらも、健康相談の定義では、“健康問題の解決”と書かれているものと、“対象者の健康課題の解決について、対象者の主体性を支援する活動”と書いてあるものに分かれていた。

同様に公衆衛生看護学の代表的なテキストにおける健康相談の展開の記載内容について検討した。健康相談の導入部分は「信頼関係を築く」「情報を集める」と共通の内容が記載されている。しかし、保健師と対象が話し合う内容は「問題」と「相談」に分かれており、話し合いをどのように捉えているかにはテキストによって違いがみられる。さらに、健康相談の終了時に実施する内容は「事後対応」「評価」「終結」と示す内容が異なっていた。

このように、保健師教育の専門家間でも、健康相談の展開に関して共通の知見は未だ得られていないことが示された。

健康相談演習の開催に関する施設見学

大学見学によって得られた、公衆衛生看護学教育における OSCE の特徴及び課題は以下の通りである。

OSCE を実施する環境の整備

OSCE ブースを設置する場所の確保、模擬患者の養成などがあつた。特に SP については自校で養成している大学が多かつた。

健康相談を展開する時間の設定

健康相談を通して実施するには最低 15 分、できれば 30 分の時間が必要だが、学生数を考えるとそこまでの時間をかけた OSCE は実施できないため、場面を限定するなどの工夫を行っていた。

OSCE 課題の設定と評価内容

OSCE 課題の選定基準は、「学生が実習で演習や実習で体験したなじみやすい健康相談」が必ずしも OSCE に採用されているわけではなかつた。マニュアルである程度統一されているような保健指導の方が OSCE として実施しやすいという意見がある反面、コミュニケーション技術などの熟練の程度が試される技術もできる限り評価したいという意見もあり、健康相談に内包される多様な技術のどこを評価するかは、各校の教育内容や各課題の展開によって差がみられた。

学内における OSCE の実施

学内における OSCE の実施で得られた内容は以下のとおりである。

公衆衛生看護の場面にふさわしい場の準備

看護系大学内にて、対象者の生活を再現するために必要な物品は準備されておらず、再現には工夫が必要であつた。また、複数の OSCE ブースを設定するためには、同じ物品を 2 組準備しなければならず、準備の負担が大きかつた。

保健師の技術を抽出したうえでの評価項目の設定

保健師が行う健康相談は、対象の服装や顔つき、言葉などから対象の様子を推測し、展開していくが、言語や数値で表せない情報をどのように読み取り対応しているのかは、OSCE では評価しづらい部分であつた。

模擬患者の確保

公衆衛生看護学では多様な住民を対象とするが、全ての課題にあてはまる対象者を模擬患者として準備することは難しい。課題に応じた模擬患者を設定するための方法を検討する必要があると考える。

健康相談の技術の構成要素の抽出および関連性の検討

2018 年に OSCE の実施経験がある保健師教員 10 名を対象に、健康相談の技術と考える内容に関するインタビュー調査を実施した。

対象者は 10 名であり、男性 2 名、女性 8 名、職位は教授 2 名、准教授・講師 4 名、助教・助手 4 名であつた。平均年齢 46.0 ± 10.0 歳 (27-59 歳) (平均 \pm SD, 範囲, 以下同様), 大学教員経験 9.1 ± 8.2 年 (1-13 年), 保健師就業経験 10.1 ± 8.0 年 (0-27 年), OSCE の経験は 4.4 ± 2.7 年 (1-8 年) であつたが、健康相談に関する OSCE の実施経験がある教員は 8 名であつた。インタビュー時間は 61.6 ± 8.3 分 (49-72 分) であつた。

調査データから、保健師が行う健康相談の技術に該当するデータを抽出し、コード化したところ、291 コードが得られた。分析の結果、保健師が行う健康相談の技術として 80 サブカテゴリー、25 カテゴリーが得られた。さらに集約して 9 コアカテゴリーが生成された。9 カテゴリーは、『健康相談の準備をする』『対象者と信頼関係を構築する』『健康相談をするために対象者から情報を収集する』『対象者の状況をさらに深く知るための情報を重ねて収集する』『対

象者と保健師が対象者の健康状態に関する情報を共有する』『集めた情報から推測・判断し、対象者の健康状態や健康課題を導き出す』『対象と一緒に健康改善の方法を検討する』『健康相談終了時に、対象者や対象者に関わる人に次の展開を提示する』『健康相談実施後の管理的対応を行う』である。その後、コアカテゴリー間の関係を検討した、保健師教員が捉える健康相談の支援プロセスを検討した。

健康相談の教育状況に関する調査

の研究で健康相談の技術に関して抽出された項目は 80 項目であったが、内容の見直しを行い、73 項目に関して調査を実施した。

健康相談の技術に関する項目を講義で教えている割合は 46.0-90.0%、演習で教えている割合は 22-80%の範囲であった。健康相談の場の準備や情報収集に関する項目は、比較的どの学校も高い割合で教育を実施していた。しかし、集めた情報から対象者の健康状態をアセスメントする技術や、対象者と保健師が対象者の健康状態を共有し、健康課題の解決を目指すために話し合うといった技術については、教育していると答えた割合は低かった。その後の健康相談の終結や管理に関する項目については、比較的教育している割合は高かった。なお、73 項目の技術項目に不足する項目を尋ねたところ、「事前にパンフレット等の資料を準備する」「パンフレットの内容を基に保健指導をする」の項目が必要だとの記載があった。

また、保健師教育における健康相談の教育実施状況は講義 2.8 ± 3.0 コマ、演習 3.7 ± 5.0 コマであった。演習をする際想定する対象は成人 74.0%、母子 62.0%の順で多かった。

健康相談に関しては、公衆衛生看護学のテキストに示されている基本的な教育項目は、ほぼすべての学校で教えられていたが、対象者の問題解決に関わる具体的な健康課題の抽出方法、対象者に自身の健康状態を理解してもらう技術、対象者の健康課題を解決する方法を対象者と共に検討するなどの健康相談の展開に関する技術については、今後も教育方法の検討をすることが必要である。

また、自由記載欄には困難事例に関する健康相談の教育の難しさが示されており、この点においても引き続き検討する必要があると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山口 忍 (Yamaguchi Shinobu) (30289871)	茨城県立医療大学・保健医療学部・教授 (22101)	
研究分担者	鶴見 三代子 (Tsurumi miyoko) (10646855)	茨城県立医療大学・保健医療学部・講師 (22101)	
研究分担者	長澤 ゆかり (Nagasawa Yukari) (10756498)	茨城県立医療大学・保健医療学部・助教 (22101)	